

## 位置図

## 野田村



被災状況(野田村) 平成23年3月24日撮影

## ◆野田村の人口

被災前 4,632名 (H22.10.1)  
 被災後 4,362名 (H25.3.1)

## ◆被災状況

平成25年 3月11日現在

### ○人的被害

死者 39名  
 行方不明者 0名

### ○物的被害

浸水範囲面積 2 km<sup>2</sup>  
 全壊 311棟  
 半壊 168棟  
 一部破損 35棟

出典: 消防庁災害対策本部 平成25年3月26日発表  
 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)被害報より

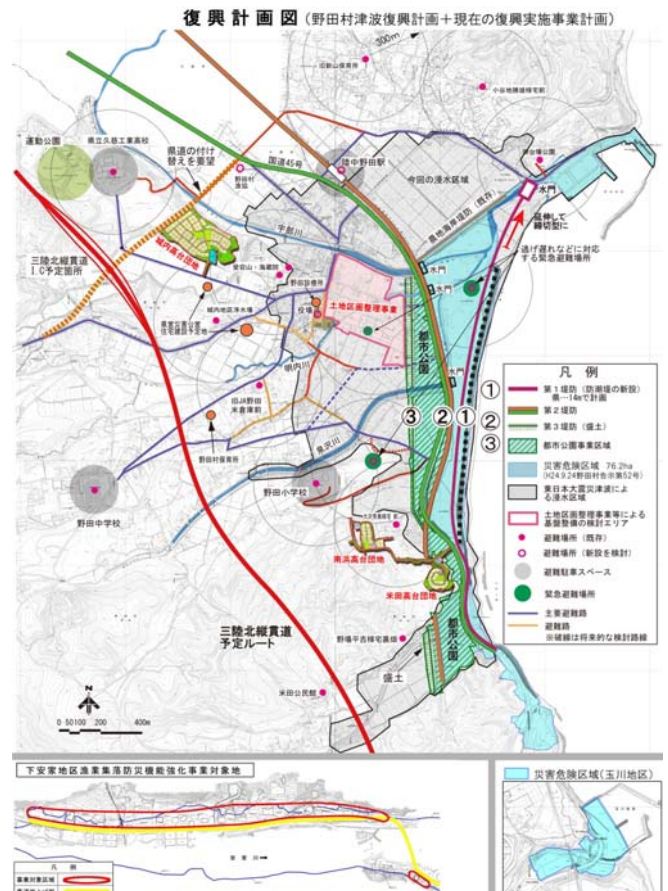
# 岩手県野田村 - 城内・泉沢地区 -

## ◆復興まちづくりの考え方

- 野田村の中心機能が集中する城内地区は、第3堤防で防災集団移転区域(海側)と区画整理区域(陸側)に分けて整備。
- 住宅地を再建し住民を戻すこと中心に、区画整理を行い、海岸側とまちなかの道路と合わせて(避難路確保)コンパクトなまちづくり。
- 防災集団移転跡地は、津波防災緑地として整備。

## ◆調査選定理由

- 平成24年4月2日付で大臣同意(岩手県内で最も早い)
- 平成26年度までに移転先の造成完了予定(造成面積 A=5.2ha)  
 平成25年1月29日に造成工事着手



## ◆復興まちづくり推進のポイント（初動対応）

- 早い時期での遺体収容  
行方不明者がなく遺体収容が早くできたため、重機のフル稼働でがれきを早く処理できたことから“復興まちづくり”への初動体制が整った。
- 行政が早期に素案作成  
首長の構想を文章化し、これをたたき台（イメージ）として行政が大枠の方針を作成。  
・第1回住民説明会（平成23年5月12日開催）
- 住民説明会には首長も出席  
震災前から住民との懇談会を実施していた経緯もあり、首長は毎回出席し、将来像を描きながら住民への説得力ある説明。
- 意見収集と情報提供  
意見を出しやすいように、小規模な説明会（30～40人程度）を数多く開催。説明会終了後は、個別相談や電話、訪問により直接住民の意見を収集。説明会資料は、HPには10日以内にアップ。欠席者には郵送。



住民説明会開催状況

3

## ◆復興まちづくり推進のポイント（計画・事業段階）

- 地域コミュニティを重視  
過去の震災を教訓とし、地域のコミュニティを守ることに着目し移転検討。地元のつながりを重視することから、住民と相談しながら移転先を選定。
- まちづくりのコンセプトは総合計画がベース  
従来からの総合計画をベースとし、目標に向けての計画づくりを推進。
- 土地区画整理事業による中心部の機能強化  
中心部の機能強化（防災面）が具体化することにより、利便性も含め中心部への定住化を促進。
- 先行的な事業展開  
復興交付金の配分を前提に準備作業を進め、交付決定前着手申請で事業を実施。



移転先造成状況(平成25年4月撮影)



移転先造成状況(平成25年4月撮影)

4

◆復興まちづくり推進のポイント（総括）

- 復興方針（案）を早期に作成し、地元説明会・個別意見徴収や住民に対する情報提供により合意形成
  
- 首長自ら住民説明会へ参加（説得力のある説明）
  
- 地域コミュニティを重視した対応
  
- 防災を基本としたコンパクトなまちづくり